

種 名 アカメガシワ  
万葉時代の呼名 久木



詠人作者未詳 万葉集卷十一 二七五三

波の間ゆ見ゆる小島の浜久木  
久しくなりぬ君に逢わずして

### 【現代訳】

波の間から見える小島の久木よ。本当に久しくなりました。あなたにお逢いしないままに…

### 【アカメガシワの解説】 トウダイグサ科アカメガシワ属の落葉高木

新芽が鮮紅色であること、そして葉が柏のように大きくなることから命名された。本州・四国・九州・東南アジアの山野に自生し、日本では二次林に多く、空き地などによく生えてくる、典型的な先駆植物である。雌雄異株で、樹高は5～10mに達する。初夏、白色の花を穂状につける。種子は高温にさらされると発芽しやすくなり、伐採や森林火災により森林が破壊されると一気に繁殖する。樹皮は日本薬局方に記載の生薬で、これを煎じたものは胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多症に効果があるとされる。